

# 1. 本校の就職に対する取り組み

## 就職に対する取り組み

本校では入学と同時に学生自身が「社会人になること」を意識できるよう取り組んでおります。入学後すぐに新入生研修を行い、社会人の基礎となる『挨拶』と『5分前行動』、『コミュニケーションの大切さ』を校内研修の体験学習にて気付かせ、渡嘉敷宿泊研修で実践します。

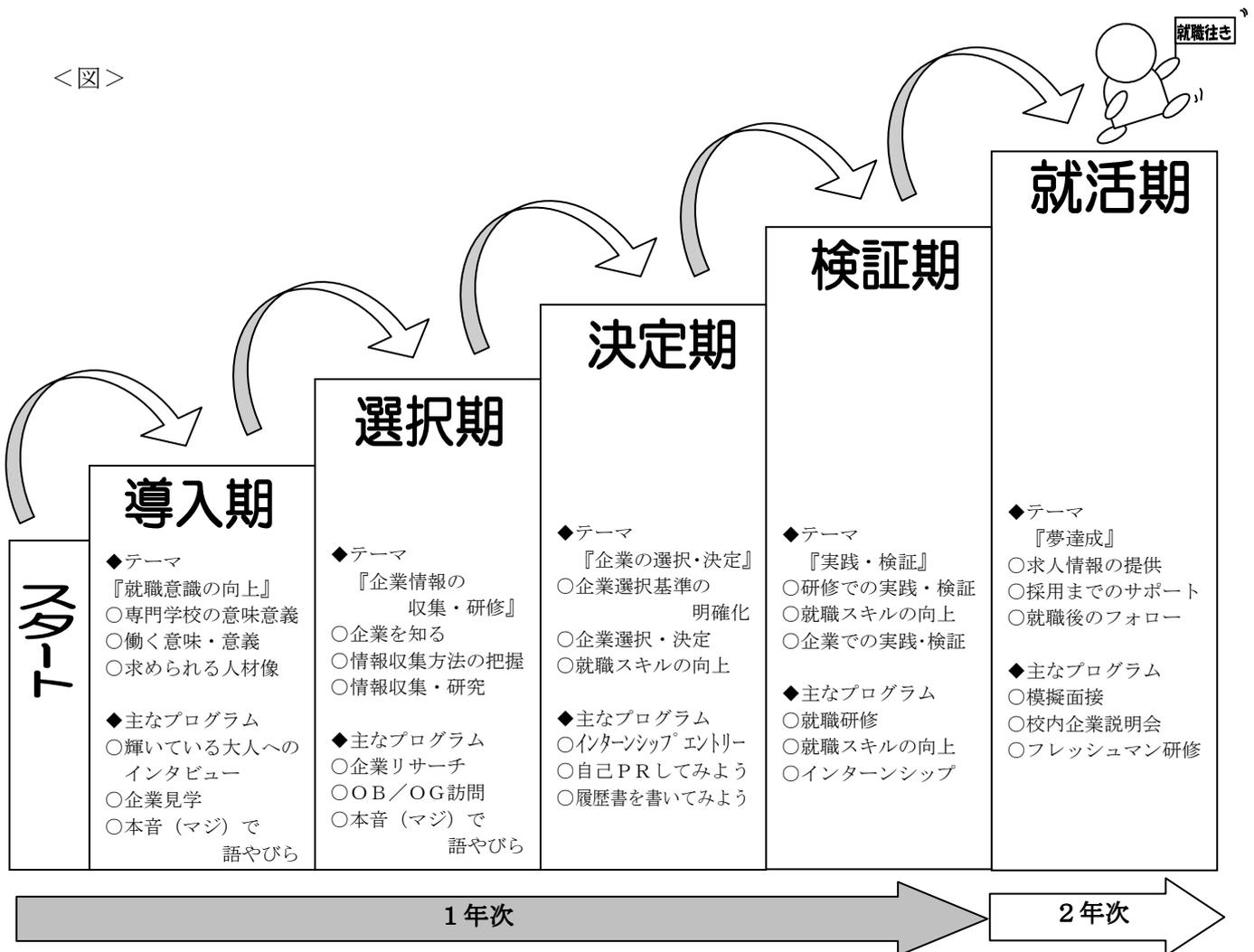
その後の学校生活においても担任を中心に、就職に対する動機付けを行い、また、学生が自ら考え自ら行動して自己実現できるよう、本校独自の就職特別プログラムを提供し、「夢だけでは終わらせない」を合言葉に職員全体でサポートいたしております。

## 就職支援システム

### ① BUSINESS WORK SHOP (ビジネスワークショップ)

図のように1年次を『導入期』『選択期』『決定期』『検証期』の4期に分けて、段階的・体系的に学生の就職に対する考え方・捉え方を育むプログラムです。「働くこと」「仕事の楽しさ・やりがい」「コミュニケーション」など、毎回就職に関するテーマでグループディスカッションを中心に行い、学生に答えを教えるのではなく、学生が自ら答えを見つけることを目標に授業を展開し、『自ら考え行動できる』人材の育成を目指しております。

<図>



## ② 本音(マジ)で語やびら

企業の社長や人事担当、本校のOB・OGなど、社会で活躍する方々をゲストに招き、「本音で」「熱く」「ざっくばらんに」語っていただくことで、学生に仕事の楽しさややりがいを感じ取ってもらうことを目的に実施しております。講演やレクチャーとは異なり、同じグループ内で、同じ目線でゲストと語り合う機会を設けることで学生が就職を身近に捉えられるようになります。

## ③ 就職研修

模擬面接を中心にブレインストーミングやグループディスカッションを行い、面接のテクニックではなく、自分のことばで自分を表現できるよう「自己表現力」の向上に努めております。

## ④ インターンシップ

本校ではインターンシップを単なる就業体験ではなく「就職直結型」と位置付け、就職支援部のバックアップのもと、学生が希望する企業に依頼してインターンシップを実施しております。

学生はインターンシップ＝採用試験と捉えて高い意識でインターンシップに臨むため、その企業で就職する例も少なくありません。

また、実施前の動機付けと実施後の振り返りに多くの時間をかけるのも本校の特徴です。インターンシップ前の動機付けでは、校内実習で実際に外部からの電話の対応や職員の手伝いなどで実務を体験させます。また、実施後の振り返りでは学生自身が何を学び、今後どのように活かしていくかをまとめ、発表する報告会の場を設けております。

## ⑤ フレッシュマン研修

就職内定及び早期就職（10月1日～）により企業へ入社している学生を対象に研修を実施し、ワークやディスカッションをとおして、『職場でのコミュニケーション』や『プロフェッショナルとは何か』などについて考えるとともに、仕事への前向きな取り組みを支援します。

## ⑥ フォローアップ研修

卒業から半年後、卒業生を対象に研修を実施し、自身の仕事に対する取り組みや気持ちを振り返り、初心を思い出してもらうことによって、卒業生がそれぞれの職場で業務に打ち込み、より『プロフェッショナル』に近づけるよう支援します。

## 2. 学生就職支援システム 詳細 Vol.1

### I.導入期【就職意識の向上】

#### 1. 基本コンセプト

- 全学生が就職するために日経で学ぶことを自覚し、実現に向けて意欲が持てるよう支援する。

#### 2. 背景

- 学生が専門学校に入学してくる理由は様々である。例えば、「就職するため」以外の理由として、「資格を取るため」、「親や先生の勧め」、「友人がいるから」、「楽しそうだから」…etc が挙げられる。
- 広報の努力や体験入学等での教務のアピールによって、日経に入学してくる学生は他校と比較して意識が高いことは容易に推測できるが、就職するために日経で学んでいくことを全学生が自覚し、実現に向けて努力できるよう動機付けることが必要である。

#### 3. 構想

- 『就職意識の向上』のための要素としては以下の項目が挙げられる。
  - a). 専門学校の意味・意義の理解 ⇒ 就職するために学んでいく。
  - b). 働くことの意味・意義の理解 ⇒ 就職するとハッピーになれる。(自己実現)
  - c). 求められる人材像の把握 ⇒ 日経で自分を磨けば社会に求められる人材になれる。

#### 4. 概要

- a). 目的：学生の就職意識の向上。
- b). ゴール：全学生の就職意欲100%。(アンケートにより検証)
- c). 期間：4月より年6月まで。
- d). 内容：支援項目【①.就職授業 ②.企業見学 ③.本音で語やびら】。
- e). スケジュール：別紙『就職授業スケジュール【I.導入期】』参照。

#### 5. 支援項目詳細

##### ①.就職授業

- 基本的に講義形式ではなくグループでのワークやディスカッション(体験型学習)を多く取り入れ、学生自身が考えて発言する機会を多くする。
- 毎回学生に感想を記入させ、理解度を測ることで授業の精度を高める。

##### ②.企業見学

- 学科の特色を活かした職種のある企業・施設を実際に見学することで働くことへの関心を促す。
- 見学先で実際に学科の特色を活かせる職種の人から話しを聞く機会も設け、働くことへの関心を促す。
- 就職授業と連動し、見学の目標を前週の事前学習で設定し、見学の翌週に振り返りで達成できたかを検証する。
- グループで見学し、企業概要や見学しての感想を模造紙にまとめ、教室で掲示して情報を共有する。

##### ③.本音で語やびら

- 講師には学科の特色を活かせる職種のある企業・施設の経営者もしくは人事担当者をお招きする。
- 講義形式ではなく同じグループ・同じ目線で、「本音」で「ざっくばらん」に話をする機会を設けることにより、学生に『求められる人材像』を把握させるとともに、働くことへの夢・希望を抱かせる。
- 就職授業と連動させ、前週の事前学習で目標を各自設定し、翌週の振り返りで達成できたかを検証する。
- グループごとに感想を模造紙にまとめ、教室で掲示して情報を共有する。

## 2. 学生就職支援システム 詳細 Vol.2

### II.選択期【企業情報の収集・研究】

#### 1. 基本コンセプト

- 企業情報と収集方法を学生に提供し、学生自身が企業を選択できるよう支援する。

#### 2. 背景

- 学生が積極的に就職活動を行えるようにするためには、企業情報を公開するとともに情報の見方や収集の方法を教え、学生自身が集めた情報を分析して自らの選択基準で企業を選べる眼を養うことが必要である。
- 就職に直結したインターンシップを実施するためには、インターンシップ先を学生自身の意思で選択することが必要である。

#### 3. 構想

- 『企業情報の収集・研究』のための要素としては以下の項目が挙げられる。
  - a). 企業を知る。 ⇒ 企業データ（企業パンフレット・企業リスト・卒業生就業先リスト）を公開。
  - b). 情報収集方法の把握。 ⇒ 企業データの見方と情報収集のポイントを教える。
  - c). 情報収集・研究。 ⇒ 実際に集めた情報を分析して自身の選択基準で企業を選べる「眼」を養う。

#### 4. 概要

- a). 目的：就職先を決定するための情報と収集方法を提供し判断基準（企業を選ぶ眼）を養う。
- b). ゴール：学生が企業の情報と自分なりの企業選択基準を持っている。（アンケートにより検証）
- c). 期間：7月より9月まで。
- d). 内容：支援項目【①.就職授業 ②.企業(OB・OG)訪問 ③.本音で語やびら】。
- e). スケジュール：別紙『II.選択期【企業情報の収集・研究】スケジュール』参照。

#### 5. 支援項目詳細

##### ①.就職授業

- 現段階で情報を収集・研究する企業を絞り込む。
- グループでのワークやディスカッション（体験型学習）に加え、企業データの見方、情報収集の手法も授業をとおして伝えていく。

##### ②.企業(OB・OG)訪問

- 学科の特色を活かした企業・施設で勤務しているOB・OGから情報収集することで、学生自身が企業選択の判断基準を作れるようサポートするとともに、働くことをより現実的に捉えさせることができる。
- 就職授業と連動し、質問項目や達成目標を事前に設定し、振り返りで達成できたかを検証する。
- グループで訪問し、企業概要や訪問しての感想を模造紙にまとめ、教室で掲示して情報を共有する。

##### ③.本音で語やびら

- 講師には学科の特色を活かせる職種のある企業・施設で勤務している卒業生を招く。
- 講義形式ではなく同じグループ・同じ目線で、「本音」で「ざっくばらん」に話をする機会を設けることにより、学生自身が企業選択の判断基準を作るとともに、働くことをより現実的に捉えることができる。
- 就職授業と連動させ、前週の事前学習で目標を各自設定し、翌週の振り返りで達成できたかを検証する。

## 2. 学生就職支援システム 詳細 Vol.3

### Ⅲ.決定期【企業の選択・決定】

#### 1. 基本コンセプト

- 就職したい企業を決定し、その企業に雇用され得る人材になるよう支援する。

#### 2. 背景

- 学生が自ら就職希望先を決定できるようにするためには、自身の企業を選択する基準を明確にさせる必要がある。
- また、自身の選択基準で決定した企業に認められるスキルを身につけさせることが必要である。
- インターンシップは学生自身が選択・決定し、単なる「就業体験」ではなく、採用を勝ち取るつもりで臨む「就職直結型」と捉える必要がある。

#### 3. 構想

- 『企業の選択・決定』のための要素としては以下の項目が挙げられる。
  - a). 企業選択基準の明確化 ⇒ 「なりたい自分像」を明確にする。
  - b). 企業の選択・決定 ⇒ 収集した情報を整理し就職したい企業並びにインターンシップ先を決定する。
  - c). 就職スキルの向上。 ⇒ 就職したい企業に認められ得る表現力を身につける。

#### 4. 概要

- a). 目的：就職希望先の決定と就職スキルの向上。
- b). ゴール：インターンシップに向けての目標設定とスケジュールがひける。
- c). 期間：10月より12月まで。
- d). 内容：支援項目【①.就職授業 ②.インターンシップ先の決定
- e). スケジュール：別紙『Ⅲ.決定期【企業の選択・決定】スケジュール』参照。

#### 5. 支援項目詳細

##### ①. 就職授業

- インターンシップエントリーを実施し、最終決定する。(なりたい自分像の明確化)
- グループでのワークやディスカッション(体験型学習)に加えて、履歴書・エントリーシート の書き方を取り入れ、学生の表現力を磨く。

##### ②. インターンシップ先の決定

- インターンシップ受入れ可能な企業のリストを提示し、個々の理想に近い企業とのマッチングを図る。
- 就職授業と連動させ、選択から決定、目標設定とスケジュールリングまでを支援する。
- 就職を希望する企業とのマッチングを最大の目標とし、学生が就職を希望する企業が受け入れできない場合は、関連企業、同業他社、希望職種の順にマッチングを図る。

## 2. 学生就職支援システム 詳細 Vol.4

### IV.検証期【実践・検証】

<p>1. 基本コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 就職スキルを実践・検証させ、学生ひとりひとりが『夢達成の入り口』に立てるよう支援する。</li></ul>
<p>2. 背景</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ これからの本格的な就職戦線で、学生が自ら考え自ら行動できるようになるためには、就職希望先（業種・職種）で認められ得るスキルを身につけているかを検証し、足りないのであれば課題は何なのかを確認させることが必要である。業界や職種によって求められるスキルは異なるが、就職の授業においてはそのベースとなる職場環境に順応できる積極性・協調性とコミュニケーション能力の向上を図っていく必要がある。</li></ul>
<p>3. 構想</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 『実践・検証』のための要素としては以下の項目が挙げられる。<ol style="list-style-type: none"><li>a). 研修での就職実践・検証 ⇒ 就職研修で就職スキルを実践・検証。</li><li>b). 就職スキルの向上 ⇒ 就職したい企業に認められ得るスキルを身につける。</li><li>c). 企業での就職実践・検証 ⇒ インターンシップで就職スキルを実践・検証。</li></ol></li></ul>
<p>4. 概要</p> <ol style="list-style-type: none"><li>a). 目的：就職スキルの実践・検証。</li><li>b). ゴール：これまで身につけたことを実践・検証しインターンシップ先から評価を受ける。</li><li>c). 期間：1月より3月まで。</li><li>d). 内容：支援項目【①.就職研修 ②.就職授業 ③.インターンシップ】。</li><li>e). スケジュール：別紙『IV.検証期【実践・検証】スケジュール』参照。</li></ol>
<p>5. 支援項目詳細</p> <ol style="list-style-type: none"><li>①. 就職研修<ul style="list-style-type: none"><li>■ 検証期のスタートと位置づけて、検証期開始時に実施する。</li><li>■ 表現力の要素を基本・応用・実践として捉え、それぞれを演習しフィードバックで検証する。</li></ul></li><li>②. 就職授業<ul style="list-style-type: none"><li>■ 就職研修を経て発見した課題や目標に取り組めるよう支援してインターンシップにつなげる。</li><li>■ グループでのワークやディスカッション（体験型学習）を活用してコミュニケーション能力（表現力・説明力）や積極性・協調性のスキルアップを図っていく。</li></ul></li><li>③. インターンシップ<ul style="list-style-type: none"><li>■ 検証期のゴールであるとともに就職授業の集大成と位置づけて、学生自身が選択・決定した企業から採用を勝ち取るつもりで臨ませる。</li><li>■ 就職スキルを実践・検証し、そこで得た評価を基に課題や目標を設定させることによって夢達成につなげる。</li></ul></li></ol>

※1. 上記「I. 導入期」～「IV. 検証期」はベースの期間・内容です。

※2. 学科の特色・スケジュールに合わせてカスタマイズ化されていますので、実施期間・内容は学科ごとに若干異なります。